

平成28年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月10日（火）午後7時～午後8時55分
□会 場	宮津公民館
□参加者	町側11人、地区側26人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

常日頃は、阿久比町行政につきまして、皆さま方の温かいご支援のもと、施策を進めさせていただいておりますことを感謝申し上げます。一昨年、行政協力員さんから未来づくり懇談会のあり方を考えてみようということになり、多くの地区からご意見がありました。アンケートをとった中で、毎年テーマを絞り込んだ方がいいのではないかという意見が多く、内容を変えました。

私から皆さんへ重点施策等を述べさせてもらったあと、「高齢者と地域のつながり」と「ゴミの減量化」についての2つのテーマについて各部長から話をし、その後、各地区のことについて皆様方と意見交換をし、議論を深めたいと思います。

さて、皆様のおかげで新庁舎も完成させていただき、職員も頑張っていますが、役場としての器は良くなったが、中身の職員の質やサービス対応が悪いのではないかと、言われてはいけません。ということで、「町民の役に立つ場」としての役場という意識を職員に毎回説明しています。

役場を拠点として阿久比町のまちづくりを進めていきたい。そのなかで、阿久比町というまちがこの時代この地域のどういう位置付けか、将来のまちづくりをするときには、そこでどういう利点を生かしたらよいか述べさせていただきます。

私はよく「NAMトライアングル」という言葉をつかわせてもらっていますが、これは、名古屋圏（N）と三河圏（M）と阿久比（A）の3点を結んだトライアングルの考えがこれからの阿久比町を存続・発展させていくために必要と思っています。そうすることによって「田園町富」と言っておりますが、自然を守りながら、人間と自然が共存し、阿久比の今までのよさというものを残しながら住民減少に向かうことなく、維持できるようにまちづくりを進めて参ります。

阿久比町の位置付けと今の町政について、どういう町づくりに持っていったほうが良いのかということをお考えさせながら進めているのが実態でございます。

（1）平成28年度予算について

配布資料に基づき今年度予算について説明します。総額約173億6,409万円、阿久比町始まって以来の大型予算となります。一般会計予算は106億円。人口も増加し、4月1日現在で28,372人。平成27年国勢調査では、平成22年調査と比べ県内世帯増加率1位、人口増加率でも2位となりました。

町民一人当たり143,545円町税として納めていただき、町費として375,521円を皆さまのために使っております。

(2) 平成28年度重点施策について

○新庁舎建設事業費19億7,734万円、新庁舎建設費は今年度が最後となります。新庁舎総工費は約47億7千万円となり、ホール棟及び食堂棟の完成をもちまして全ての新庁舎建設が完了します。

○防犯カメラ設置事業1,150万円。高齢者の徘徊防止や行方不明対策を目的に設置し、今年22機を設置しますと、町全体で62機になります。また、公用車にもドライブレコーダーを搭載し、町民の安全を守っています。

○子ども医療費支給事業1億8,283万円。

○高齢者タクシー料金助成事業1,728万円。70歳以上の利用者は2,200人となります。

○放課後児童健全育成事業2,875万円。対象児童が328人。各家庭で約13.2万円を負担していただいておりますが、町負担も一人当たり8.75万円となります。

○ゴミ処理事業3億8,968万円。数年先は4億円となります。

○道路・橋梁補修事業1億1,672万円。長寿命化のため予算化しています。

○小学校の空調設備整備事業7,192万円。この予算も最後となり、今年度は英比小学校が対象で、全小中学校完備となります。教育環境の施策としては、知多半島随一となります。

○ほたるサミット開催事業350万円。白沢ホテルの里も会場となります。

○住民税1%町民予算枠事業724万円。

(高齢化について)

各地区の高齢化率、少子化率について説明。

(地震対策について)

熊本地震により被災された方にはお見舞い申し上げます。

4月14日に前震、16日が本震といった震度7クラスが2回もありました。想定外でした。しかし、私が一番恐れたのは、4月1日に発生した三重県南東沖地震です。私や職員のスマホが鳴り、防災無線も鳴りました。あれは、明らかに南海トラフ地震が来たということで国が情報を流してしまいました。結果は震度4ぐらいで終わり、運が良かったと言いきりありませんでした。あれは、間違っただけではなく、本当に危なかったから流したと思います。

4月5日に名古屋大学減災連携研究センターの福和教授にお会いしました。その時に私は、「4月1日の地震は、場所が悪かったですね」と先生にお尋ねしました。すると先生も「そのとおり。あの位置が一番まずい。今後地震学者も政府も発言を控えることになるだろうね」とおっしゃっていました。その時は、言っている意味が分かりませんでした。そして、4月14日に発生した熊本地震では、地震が地震を誘発し、震源が移動しました。その時、気象庁は、「発表を控えます」と言っていました。この言葉はどこかで聞いたことがあり、福和教授の発言と合致しました。

町として現在、全ての地震マニュアルを見直し、作成し直すよう防災交通課長にも伝え、進めています。

私自身もゴールデンウィークに自宅2階の荷物を軽くする整理をしました。私は、南海トラフ地震が来ると思います。今回の地震との関連性について、地震学者の意見も分かれ

ていますが、日向灘が揺すったら南海トラフ地震は来るのだと言われていています。京都大学の梅田名誉教授は、関連性があると言っています。職員にも覚悟を決めてほしいと伝えましたし、地震が来たときのため自宅でも対応するよう指示しました。また、安政の大地震の前に起きた現象として、新潟の焼山、北海道の有珠山、阿蘇山で噴火が起きたと文献に記されています。そこで、今回に当てはめてみると、阿蘇山と焼山が噴火しました。その点でも何となく不気味です。愛知県でも三河方面で地震があり、県から届いたデータを見てみると、震源地に近いから揺れが大きいという訳ではなく、断層が影響しています。阿久比町にも断層はあります。私がこれだけオーバーなこと言っていて、何も起こらなければ幸いです、やるべきことはやっておいていただきたいと思います。町としてやるべきことはやります。あと1年で避難所にもなるホールが完成します。旧庁舎ができあがって6カ月後に伊勢湾台風が来たという歴史もあります。いろいろな情報を集めると、非常にいやな時期であることを認識してください。

もし、地震が起きた場合、行政協力員の皆さまは、住民から頼りにされるポジションとして、ご尽力いただきますようお願いいたします。そのためには健康にご留意し頑張ってくださいと思います。

3. 懇談会テーマと質問事項等の主旨要約

① 高齢者と地域のつながり（配布資料に基づき民生部長説明）

（高齢者人口等の状況）

町の人口と各地域の65歳以上と75歳以上の高齢化率、さらに65歳以上の単身世帯について説明。

（高齢者問題）

高齢者問題とは、団塊の世代が平成37年に75歳以上となり、日本の全人口が1億2,066万人に対して75歳以上が2,178万人となり、約6人に1人が75歳となる超高齢化社会のことを言います。この年齢になると、医療費や介護状態の人が増加し、公的負担が増加すると言われていています。本町でもこの年は、人口推定約29,188人、そのうち4,851人が該当し、6人に1人となり、全国水準並みになると予想しています。また、65歳以上も8,173人となり、全体で28%と推計し、現在より1.12倍増加を見込んでいます。衰えをスローペースにするような環境づくりや元気な体を維持できれば、医療費や介護費を抑えることはできると思っています。そのために今から準備としてできることから対応すること。「いつまでも住み慣れた地域で暮らすため、また、高齢者が安心して生活できる環境を作り、人と人とのつながりを基に地域ぐるみで支え合う」ことが大切と考えています。

（各地区の高齢者活動について）

町内で行われている地域の支え合い事業を紹介する。学区ごとに運営されている宅老所や地域のいきいきクラブの会員同士が孤独を防ぐため行うサロン活動や訪問活動、助け合い活動等について説明する。また、地区での実績や参考となる活動を紹介。

（まとめ）

今後も地域で支え合いながら、無理なく継続可能な活動をしつつ、アイデアがあれば町も可能な限りバックアップすることを伝える。また、地域での新しい動きや提言があれば、

ご意見を伺いたい。

(①) について地区からの提言・質問事項についての主旨要約

質問（１）配布資料から、宅老所やいきいきクラブについて、今の説明で仕組みややっている内容は分かりましたが、そこに参加している人数や、活動している地区がどのレベルまで達しているかという資料はありますか。（宮津）

答）本日、そこまで詳細な資料は持ち合わせていません。（民生部長）

関連質問）また、現状で仕組みができてから良いのではなく、高齢化率の高い地域に宅老所以外の活動がなく、地区の事情も含め、何もしていない地区に実施させなければならぬと思います。そのための中身の議論が必要ではないのですか。このことが元気な地域を増やすことになると思います。（宮津）

答）それ以前に、地域の方が集まるといった場づくりが必要と思います。町や社会福祉協議会もその地区の話し合いの場に参加の要望さえあれば、出向いて情報提供をすることも可能です。また、現在いろいろな活動をしている地域でも、担い手の高齢化や、減少など後継者問題が課題であると思いますので、アドバイスが必要と考えています。（民生部長）

質問（２）訪問活動について、６５歳以上の単身世帯の把握に民生委員が関わっていますが、民生委員は現状を分かっているのでしょうか、その方と地域が連携する方法について、事例がありましたらご教示ください。民生委員と同行することは難しいと思います。（宮津）

答）民生委員の役割が多いことは理解しています。訪問活動をしている地区を紹介しますと、大古根地区が、現在の訪問活動を始めるきっかけとして、独居高齢者を訪問してくれるボランティアを地区で募集して、その活動を何人かで行うようになり、それがサロン活動へと変わっていきました。（民生部長）

質問（３）地域福祉計画は、ただ、作っただけで行政側から働きかけがなく進展がない。各地域の区長や民生委員が率先してやっている地区が盛んになっていることはいいですが、小さい地区は特に行政側から地区へ組織作りの提案をすることが必要ではないでしょうか。小さい地区では、担い手もいませんので、福祉計画が進んでいかないと思います。

この地区の６５歳以上の一人暮らしが６名いますが、そのうち一人の方は体が不自由で、その方以外はお元気なので、大変ありがたいのですが、見守り活動やサロン活動を始めようとしても、民生委員一人では何もできないので、行政協力員会などで組織づくりを提案していただけないでしょうか。（萩）

答）地域から声が上がリ、組織を作ることが望ましいのですが、まず、話し合いの場を作

っていただきたい。町に声を掛けていただければ、そこに行政は出向きます。そこで、何らかのアドバイスや情報提供をいたします。二の足を踏んでいる地区も集会などのときに声を掛けてもらえれば、町はいつでも協力させていただきます。(民生部長)

関連質問) 地域から声が上がってくるのが理想だと思いますが、町のコーディネーター(社会福祉協議会)が役場と地区との橋渡しとして意見を吸い上げて、活動を広げていくことがいいのではないのでしょうか。(宮津)

答) 社会福祉協議会からいろいろな話は伺っていますし、情報提供することもサポートすることも可能だと思います。(民生部長)

質問(4) 今後介護制度が変更となり、要支援1, 2が外されると伺っています。町は、現在のサービスを低下させないと言っていますが、本当はどうなるのですか。例えば、地域の人がやろうとしても、風呂の介助などは素人ではできません。介護保険をずっと納めていても、結局はサービスを受けることができない。という声が多いです。本当に町としてこれでいいのかと国に言ってほしいです。そういう人たちのために、地域が考えなければならない問題ですが、町としても地域に投げかけてほしいと思います。(宮津)

答) ご質問は、日常生活支援の総合事業のことだと思いますが、平成29年4月1日から現在の要支援1, 2の方が利用するサービスのうち、ヘルパー(家事援助)やデイサービスについては、介護保険から切り離して考え、地域の事情などに応じ、柔軟な取り組みができるサービスに移行します。その中で、なるべく安い報酬単価で、サービスが低下しないようそれぞれの市町村で考えることを国から求められています。

ヘルパーですと、現在の国の高い介護報酬単価ではなく、資格がなくても十分支援できる方がサービスを提供すれば、報酬単価を抑えることができますし、デイサービスも軽度なサービスでよい方の居場所さえあれば、安価な報酬単価で提供でき、利用者の自己負担も軽減されます。

本日のテーマは、介護状態にならないようにするにはどうするかであり、要介護の方を地域で何とかしなさいと言っている訳ではありません。介護状態の方には介護保険を今後も利用していただき、新たな介護保険制度の下でも、できるだけサービスが低下しないように努力して参ります。(民生部長)

② ゴミの減量化について(配布資料に基づき建設経済部長説明)

(予算について)

皆さんにゴミの減量が可能かどうか考えてほしい。ゴミ処理事業に3億8千万円ほどかかっている状況です。

各地区の燃えるゴミの収集運搬に1億1,600万円、東部知多衛生組合負担金に1億2,200万円となり、燃えるゴミを出すだけで総額2億3,800万円かかっています。

(阿久比町の回収ゴミ量)

ゴミの量については、資源ゴミがやや減少しているだけで、プラゴミや粗大ゴミは変わ

りません。

(地区別報奨金)

資源回収した地区へ町は報奨金を出しています。地区での報奨金の状況を過去3年間紹介。各地区にばらつきがありますが、その中でも頑張っている地区を紹介。積極的に資源回収に取り組んでいただきたいです。

(近隣市町の状況とゴミ袋の値段)

ゴミの状況について、近隣市町と比較すると東部知多衛生組合の中で多い方です。近隣市町の中でも常滑市が低い理由は、ゴミ袋の値段が高いことが考えられます。また、東海市のゴミ袋が高い理由は、毎年初めに一定量を無料配布しているためです。

(東部知多衛生組合の状況)

現施設は老朽化が進んでおり、毎年多額な修繕費を投入しています。現施設は、昭和63年に完成し、建築後30年となる平成31年に新施設が稼働予定となっていますが、現施設240トン/日のところ200トン/日となります。その理由のひとつに人口が減る状況もあり、ゴミの減量を考えていただきたい。ところが、本町は、人口が増加している現状もあります。

(町としての取り組み)

○ゴミ袋の抜き打ち検査をしています。これは、パッカー車1台のゴミの状況を確認しています。この中には資源ゴミも入っています。一般家庭ゴミの中に、事業系ゴミも入っています。この場合、その事業所あてに書面を出しています。この分は有料で処分するよう促しています。

○生ゴミの堆肥化にも取り組んでいます。アスパの配布をしています。

○生ゴミを入れて処理する機械にも補助金を出しています。

(まとめ)

東部知多衛生組合の炉も平成31年度に完成しますが、処理規模が縮小されます。

ゴミの減量のため東部知多衛生組合関係市町でゴミ袋代の高額化の話も出ています。

これら紹介した内容等について現状の把握ができたと思いますが、具体策等が在りましたらよろしく願います。

(2) についての地区からの提言・質問事項についての主旨要約)

質問(1) 配布資料の中で、資源ゴミの量が、陽なたの丘で少ないのには理由があるのでしょうか。(宮津)

答) 引っ越してきたばかりで少ないということと、アピタ、サンキュー、ヤマナカなどで資源ゴミを回収していますので、そちらに持っていく分が多いのではないかと思います。

(建設経済部長)

質問(2) ゴミステーションの改修を1%予算枠でやっていただきましたが、そのメンテナンス部品はどちらでいただけるのですか。以前はいただけましたが、カーテン式などの新しい部品もいただけるのですか。(宮津)

答) 従来のものは悪くなれば建設環境課で取り替えます。新しい形のものは、どんな部品が必要か検討します。(建設経済部長)

質問(3) 捨ててはいけないものに対し、しばらく張り紙をすることは継続していますか。
(宮津)

答) 続けています。そのまますぐに片付けてしまうとよくありませんので、お知らせのため、しばらく張り紙をしてから片付けます。(建設経済部長)

質問(4) 資源ゴミの量は町として増えた方がいいのですか。減った方がいいのですか。
(宮津)

答) きちんと、仕分けができれば資源ゴミは増えます。町の財政面で言えば、資源ゴミが減れば町が負担している負担金も減るのでありがたいという面もありますが・・・。(建設経済部長)

報奨金制度は、阿久比町独特のものがあります。報償金制度自体を他市町みたいにやめてしまうことも考えられます。しかし、資源ゴミの財産権はどこにあるのかという問題で、資源ゴミの窃盗があった場合、誰が訴えるかという疑問が発生したため、町の財産とすることにし、被害に遭った場合、町が訴えることにしました。そのため、現在、町に一旦入った売り払い処分費をそのまま地区にお支払いし、それとは別に報奨金を地区にお支払いする方法を行っています。そのことを町民はあまり理解しておりませんが、報奨金は、地区へのご褒美と啓発を兼ねてやっています。町の財政からすると検討する余地もあります。
(町長)

関連質問) 報償金を字の経費とすることを考えると、財政面でよいのですが、分別という観点からですと、落とし所として区民にどのように周知したらよいかを知りたいです。(宮津)

答) 町としては、字に入るお金を増やしていただきたい。財政が苦しい中この報奨金制度を続けているということは、できるだけ分別していただきたいという表れとして、また、字費のプラスになっているのだということで、区民によく周知、啓発していただきたいと思います。(町長)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問(1) コラボ事業で行った「なんでも交換市」で、公民館の利用申請をしたが、金銭の授受がある場合、公民館を利用できないと言われ、急きょ会場を空き地に変更しました。大字の行事やコラボ事業などは、チャリティー目的の場合、公民館を利用できるように検討していただけないでしょうか。

もう1点、宮津公民館などは、色々な団体が利用しているのに、大規模改修する場合、大字宮津が1／2費用負担するのは、区民に説明がしにくいので、利用度を勘案した費用負担割合に変更することを検討していただけないか。(宮津)

答) 1点目は、営利ではないということですので社会教育課と検討し詰めます。大規模改修につきましては、長年折半ということで線引きをしております。利用料につきましては、検討委員会も立ち上げていますので、減免方法なども含め議論していきたいと思っています。(副町長)

要望) 東部小学校の駐車場について、新入生も増加傾向にあり、地区としても考えなければいけないと思っています。近隣に遊休農地もあると聞いていますので検討していただけるとありがたいです。(宮津)

5. 閉会あいさつ

今回から新たな取り組みでテーマを決めて懇談会をさせていただきました。特に身近な事業でもあります。今後とも行政と地区が連絡を密にしていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。(副町長)